

## (7) 三重県観光キャンペーンについて

## 1 県内の周遊性・滞在性を高める取組

## (1) みえ旅パスポート・みえ旅案内所・みえ旅おもてなし施設

観光客の県内での周遊性、滞在性を向上させ、県内各地の魅力に触れていただくことで、三重ファン、リピーターを増加させることを目指し、「みえ旅パスポート」の発給を行うとともに、道の駅をはじめ、宿泊施設など県内の様々な施設に対し、「みえ旅案内所」及び「みえ旅おもてなし施設」への協力を働きかけています。

- みえ旅パスポート発給数（11月30日現在） 350,339件
- みえ旅案内所設置数（11月30日現在） 95施設（当初：68施設）
- みえ旅おもてなし施設（11月30日現在） 857施設（当初：640施設）

## 2 官民一体となった情報発信

## (1) 交通事業者等と連携した情報発信

近畿日本鉄道、東海旅客鉄道、三重交通、中日本高速道路、中部国際空港等と連携し、観光客の周遊促進及び再来訪を訴求する情報発信を展開しています。

中日本高速道路

「実はそれ、ぜんぶ三重なんです！」ドライブプラン

熊野古道世界遺産登録10周年や紀勢道の全線開通に伴い、自動車による観光客の周遊性を向上させるため、中日本高速道路と連携した料金の割引企画を実施しました。

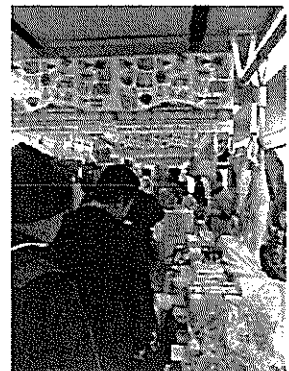
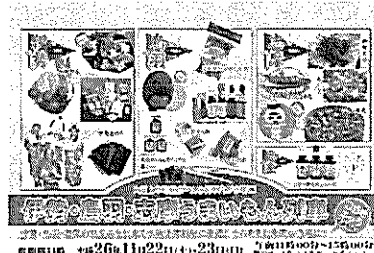
期 間：平成26年7月1日（火）  
 ～平成26年11月30日（日）  
 エリア：東京発着エリア、県内周遊エリア  
 申込実績：3,515件（昨年度の実績に対し、17.4%増）

近畿日本鉄道

伊勢・鳥羽・志摩うまいもん列車

株式会社近畿日本鉄道と連携し、大阪上本町駅構内で「伊勢・鳥羽・志摩うまいもん列車」を開催し、伊勢志摩及び三重県の特産品を車内販売するとともに、駅構内でキャンペーンのPRを実施しました。

開催期間：平成26年11月22日（土）・23日（日）  
 入場者数：2,386名



## (2) 企業等と連携した情報発信

民間事業者と連携し、商品開発、ロゴマークの活用等に取り組んでいます。

フードイノベーション課と連携し、県内の3つの老舗和菓子屋（株式会社柳屋奉善、有限会社深川屋、有限会社平治煎餅本店）の銘菓を同一梱した三重県観光キャンペーンコラボ商品「三重讚菓（みえさんか）」を販売しています。

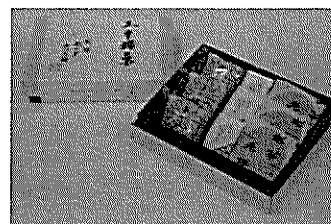
商品名：三重讚菓（みえさんか）

老伴 3個

関の戸 3個

平治煎餅 3個

販売場所：津駅ビル「CHUM（チャム）」1階（津市）、各事業者店舗



## (3) 県内外イベント等での情報発信

県内外各地で開催された関係団体のイベント等において、観光キャンペーン及び県内観光のPR、みえ旅パスポートの臨時発給等を実施しています。

(主なPRイベント)

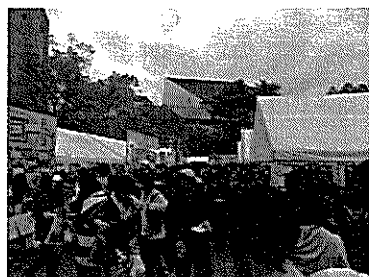
鈴鹿F1日本グランプリ 平成26年10月3日（金）～5日（日）

津まつり 平成26年10月11日（土）・12日（日）

岐阜県農業フェスティバル 平成26年10月25日（土）・26日（日）

紀和町ふるさとまつり 平成11月3日（祝月）

明治村PRイベント 平成26年11月22日（土）～24日（祝月）



(津まつり)



(岐阜県農業フェスティバル)



(明治村PRイベント)

## 3 おもてなしセミナー（現地研修）の開催

「みえ旅案内所」職員を中心に、本年4月にオープンした三重県立総合博物館 MieMuにおいて、学芸員による研修等を開催し、県内の歴史・文化等を学んでいただくことで、今後の案内機能の充実を図ります。

開催日：平成26年12月10日（水）

場所：三重県立総合博物館 MieMu

参加者：みえ旅案内所職員・市町職員等 30名（予定）

内容：学芸員による研修、意見交換

## 4 広域連携

東京や大阪などの大都市圏において、遷宮や古事記、日本書紀などの共通テーマを中心に、島根県や奈良県と連携して情報発信しています。

### ●三県連携記紀シンポジウム

開催日：平成26年11月1日（土）

場 所：大阪歴史博物館 参加者：202名

基調講演：「古事記1300年の謎と伊勢・大和・出雲」

講 師：斎藤英喜氏（佛教大学歴史学部教授）

パネルディスカッション：

「記紀を訪ねて～伊勢・大和・出雲の魅力に迫る～」

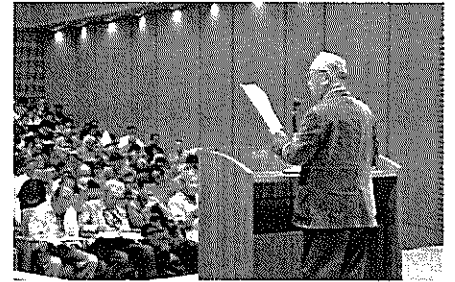
パネリスト：

斎藤英喜氏（佛教大学歴史学部教授）

吉田悦之氏（本居宣長記念館館長）

谷垣裕子氏（奈良県観光局ならの魅力創造課課長）

錦田剛志氏（万九千神社宮司、島根県神社庁参事）



基調講演



パネルディスカッション

### ●三重・島根連携講座

開催日：平成26年11月23日（日）

場 所：三重テラス 参加者：51名

テーマ：「記紀と聖地－伊勢・出雲の知られざる魅力－」

トーカー：植島啓司氏（宗教人類学者）

萩 美香氏（女優、みえの国観光大使）



三重・島根連携講座

### ●三重・奈良連携講座

開催日：平成27年1月25日（日）

場 所：三重テラス 参加者：約50名（予定）

テーマ：「記紀と聖地－伊勢・大和の知られざる魅力－」

トーカー：植島啓司氏（宗教人類学者）

萩 美香氏（女優、みえの国観光大使）

## 5 その他

### （1）三重県観光交流会

首都圏において、食・物産・観光等の三重の魅力を発信し、効果的なメディア露出を図るとともに、メディア等と県内観光関係者（約40～50団体）との交流の場を設けることで、今後の継続的な情報発信につなげます。

<日 時> 平成27年1月28日（水）

<場 所> ロイヤルパークホテル（東京都中央区日本橋）

<テーマ> 三世代

<内 容> 知事とのトークセッション、メディア等との交流  
PR展示（桑名市・亀山市の一の鳥居、名松線）

## (2) 三重県観光企画説明会

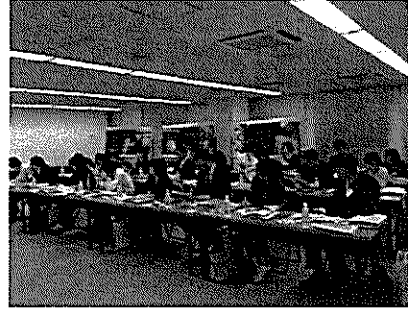
首都圏はじめ大都市で旅行商品を企画する担当者に対し、三重県観光キャンペーン及び県内観光地の最新情報を伝え、意見交換を行うことにより、旅行商品の造成、販売につなげ、本県への誘客促進を図りました。

### 開催日・場所・参加者数

(東京)	平成26年11月7日(金)	三重テラス	10社13名
(大阪)	平成26年11月13日(木)	ガーデンシティクラブ大阪	12社16名
(名古屋)	平成26年11月14日(金)	名古屋三交ビル	13社22名



(東京会場)



(名古屋会場)

---

# 三重県景気動向調査 中間報告書

---

平成 26 年第 4 回(10～12 月期)



三重県雇用経済部

調査実施機関 株式会社東京商工リサーチ 津支店

## 目 次

I. 調査要領.....	1
II. 調査結果の概要.....	2

## I. 調査要領

1. 調査時点：平成 26 年 11 月（前期＝26 年 7～9 月、今期＝26 年 10～12 月、来期＝27 年 1～3 月）
2. 調査対象：三重県内の事業所 1,500 社
3. 調査方法：郵送によるアンケート調査
4. 回答状況：319 件（有効回答率 21.3%）
5. 調査企業の業種別、従業員規模別、地域別内訳

### 【業種別】

	件数 合計	製造業	建設業	運輸業	情報 通信業	卸・小売業	金融・ 保険業	サービス業
調査対象数	1500	488	161	88	27	372	23	341
回答数	319	109	41	21	4	77	6	61
構成比(%)	100.0	34.2	12.9	6.6	1.3	24.1	1.9	19.1

### 【従業員規模別】

	件数 合計	5 人以下	6 人以上 20 人以下	21 人以上 50 人以下	51 人以上 100 人 以下	101 人 以上 300 人 以下	301 人 以上 500 人 以下	501 人 以上 1000 人 以下	1,001 人 以上
調査対象数	1500	419	518	219	121	115	28	17	63
回答数	319	69	83	60	38	39	18	8	4
構成比(%)	100.0	21.6	26.0	18.8	11.9	12.2	5.6	2.5	1.3

### 【地域別】

	件数 合計	津	四日市	松阪	伊勢	桑名	鈴鹿	伊賀	尾鷲	熊野
調査対象数	1500	207	351	190	220	183	172	118	40	19
回答数	319	54	72	44	40	36	37	26	6	4
構成比(%)	100.0	16.9	22.6	13.8	12.5	11.3	11.6	8.2	1.9	1.3

地域名	対象市町	地域名	対象市町
津	津市	鈴鹿	鈴鹿市・亀山市
四日市	四日市市・菟野町・朝日町・川越町	伊賀	伊賀市・名張市
松阪	松阪市・多気町・明和町・大台町	尾鷲	尾鷲市・紀北町
伊勢	伊勢市・鳥羽市・志摩市・玉城町・ 南伊勢町・度会町・大紀町	熊野	熊野市・御浜町・紀宝町
桑名	桑名市・いなべ市・木曾岬町・東員町		

### 【注】

○構成比(%)については、小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合があります。

○数値の前に付した△は「マイナス」を表しています。

○ODI (Diffusion Indexの略)

DI (ディーアイ) は、増加(又は「上昇」「楽」など)したと答えた企業割合から、減少(又は「下降」「苦しい」など)したと答えた企業割合を差し引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらが強いかを比べて変化の方向をみようとするものです。

なお、「雇用(人員過不足感)DIについては、「不足」から「過剰」を引いた値を使用しています。

## II. 調査結果の概要

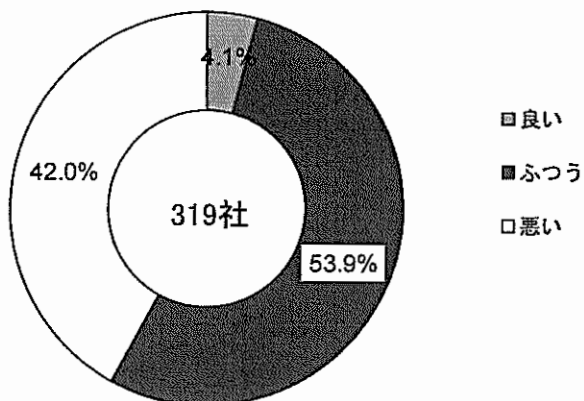
### 1. 景況感

「今期（平成 26 年 10～12 月）の県内景況感」の水準について、「良い」は 4.1%、「ふつう」は 53.9%、「悪い」は 42.0%となっています。

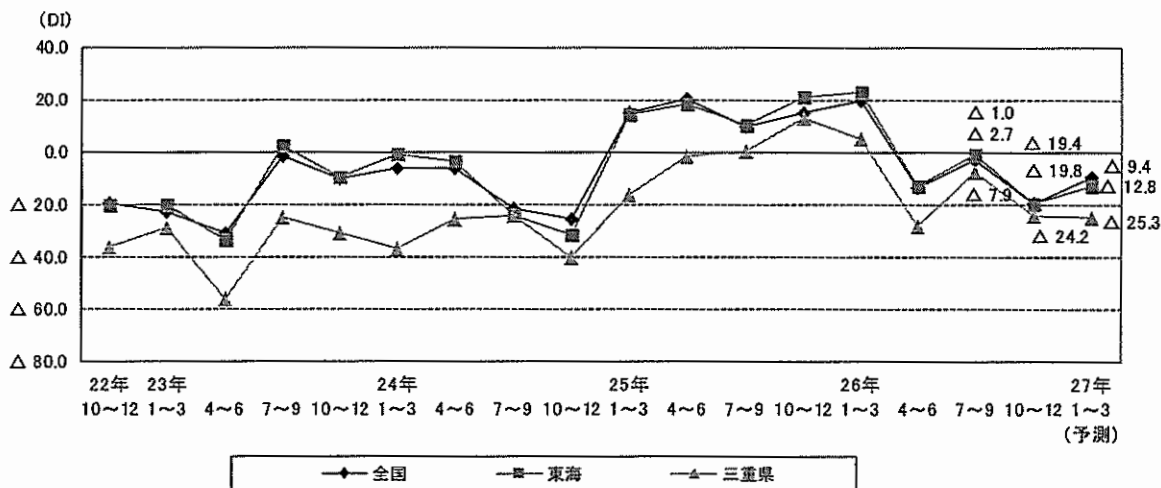
前期（平成 26 年 7～9 月）と比較した今期の「県内景況感 DI」は、マイナス 24.2 ポイントで、前期より 16.3 ポイント下降し、大幅に悪化しました。来期はマイナス 25.3 ポイントと今期より 1.1 ポイント下降し、今期同様の悪化幅で推移すると見込まれています。

内閣府『景気ウォッチャー調査』の全国と東海地方の景況感（10 月調査）をみると、全国は 16.7 ポイント下降のマイナス 19.4 ポイント、東海は 18.8 ポイント下降のマイナス 25.3 ポイントといずれも悪化幅が大きく拡大しました。先行きの見通しは、全国、東海ともに水面下ながら改善すると見込まれています。

今期の県内景況感(水準)



県内景況感 DI(前期比)と全国・東海地方の景況感



	22年 10~12	23年 1~3	23年 4~6	23年 7~9	24年 10~12	24年 1~3	24年 4~6	24年 7~9	25年 10~12	25年 1~3	25年 4~6	25年 7~9	26年 10~12	26年 1~3	26年 4~6	26年 7~9	26年 10~12	27年 1~3 (予測)
三重県	△ 36.0	△ 29.2	△ 56.0	△ 25.3	△ 31.3	△ 37.1	△ 25.5	△ 24.0	△ 40.3	△ 16.2	△ 1.5	0.7	12.7	5.3	△ 28.0	△ 7.9	△ 24.2	△ 25.3
全国	△ 19.4	△ 22.7	△ 30.7	△ 1.8	△ 10.4	△ 6.2	△ 6.4	△ 21.7	△ 25.7	15.2	20.5	9.4	14.8	19.6	△ 13.6	△ 2.7	△ 19.4	△ 9.4
東海	△ 20.2	△ 20.1	△ 33.7	2.2	△ 10.0	△ 0.8	△ 3.9	△ 24.3	△ 31.8	14.6	18.5	10.0	21.0	23.0	△ 12.8	△ 1.0	△ 19.8	△ 12.8

※景況感 DI=前期比で「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値。

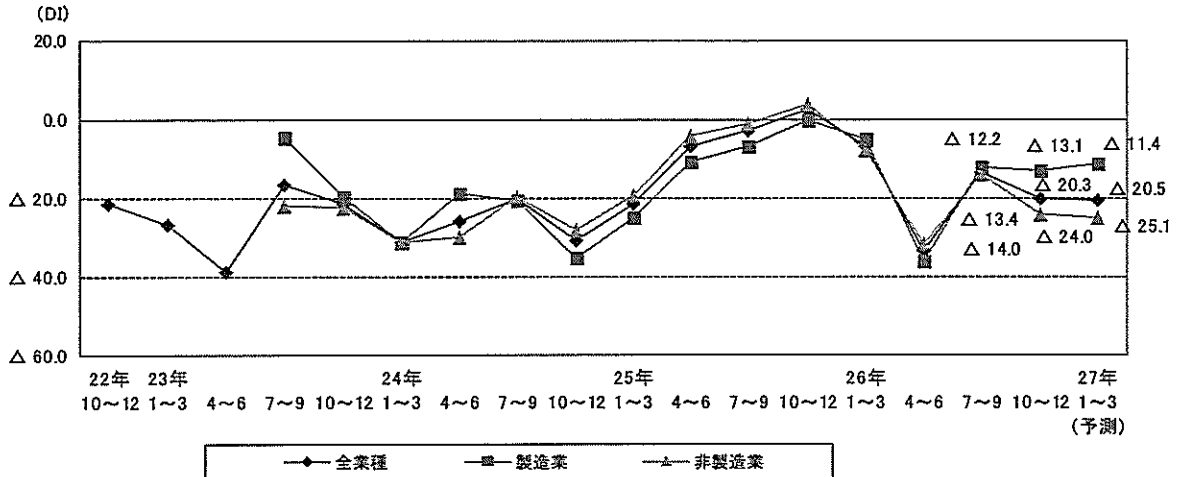
※「全国」および「東海地方」は、内閣府『景気ウォッチャー調査』の月々の結果を当調査で使用している方法で再計算し、3ヶ月ごとに平均値を算出。なお、直近の値は10月調査の値である。



## 2. 業況 DI

自社の業況についてみた「業況 DI」は、全業種でマイナス 20.3 ポイントとなり、前期から 6.9 ポイント下降し、悪化幅が拡大しました。来期はマイナス 20.5 ポイントと、今期同様の厳しさが続くことが予想されています。製造業はマイナス 13.1 ポイントと前期から 0.9 ポイント下降し、前期並の悪化幅で推移しました。非製造業はマイナス 24.0 ポイントと前期から 10.0 ポイント下降し、厳しさが強まりました。来期は製造業、非製造業とも今期同様の厳しさが続くことが予想されています。

業種別業況 DI(前期比)の動き(実績)と来期の予測



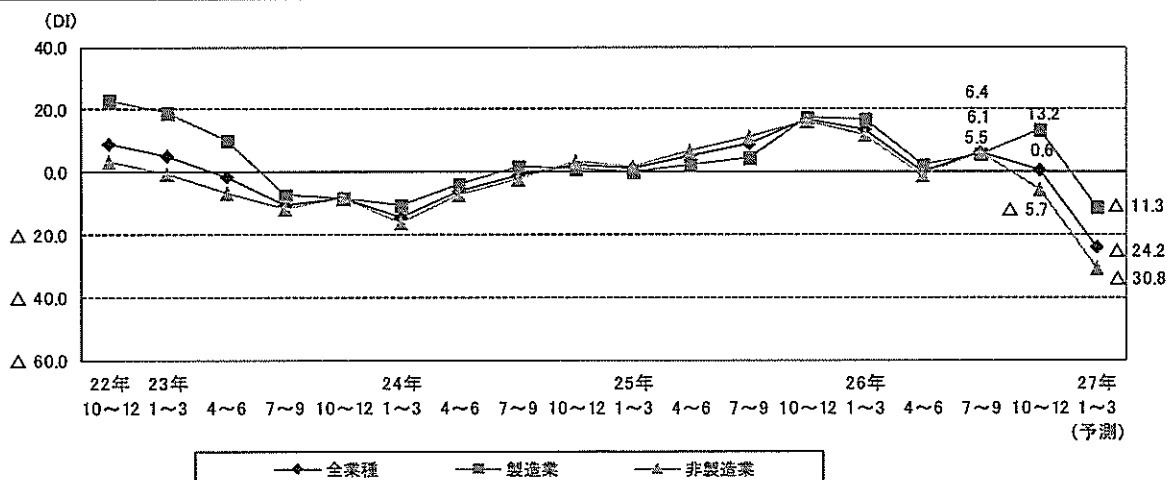
	22年 10~12	23年 1~3	23年 4~6	23年 7~9	24年 10~12	24年 1~3	24年 4~6	24年 7~9	25年 10~12	25年 1~3	25年 4~6	25年 7~9	26年 10~12	26年 1~3	26年 4~6	26年 7~9	27年 10~12	27年 1~3
全業種	△ 21.5	△ 26.9	△ 39.1	△ 16.6	△ 21.7	△ 31.3	△ 26.1	△ 20.2	△ 30.8	△ 21.4	△ 6.7	△ 3.1	2.8	△ 6.8	△ 33.3	△ 13.4	△ 20.3	△ 20.5
製造業				△ 4.5	△ 19.8	△ 31.3	△ 18.8	△ 20.7	△ 35.4	△ 25.0	△ 10.9	△ 7.1	0.0	△ 5.1	△ 36.1	△ 12.2	△ 13.1	△ 11.4
非製造業				△ 22.1	△ 22.5	△ 31.3	△ 29.9	△ 19.8	△ 28.3	△ 19.5	△ 4.3	△ 1.0	4.0	△ 7.7	△ 31.9	△ 14.0	△ 24.0	△ 25.1

※業況 DI=前期比で、自社の業況が「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値。

## 3. 収益 DI

「収益 DI」は、全業種で今期はプラス 0.6 ポイントとなり、前期から 5.5 ポイント下降しました。来期はマイナス 24.2 ポイントと大きく減少に転じる見通しです。今期、製造業はプラス 13.2 ポイントと前期から 7.7 ポイント上昇し、非製造業はマイナス 5.7 ポイントと水面下に落ち込みました。来期は製造業がマイナス 11.3 ポイント、非製造業がマイナス 30.8 ポイントと予想されています。

業種別収益 DIの動き(実績)と来期の予測



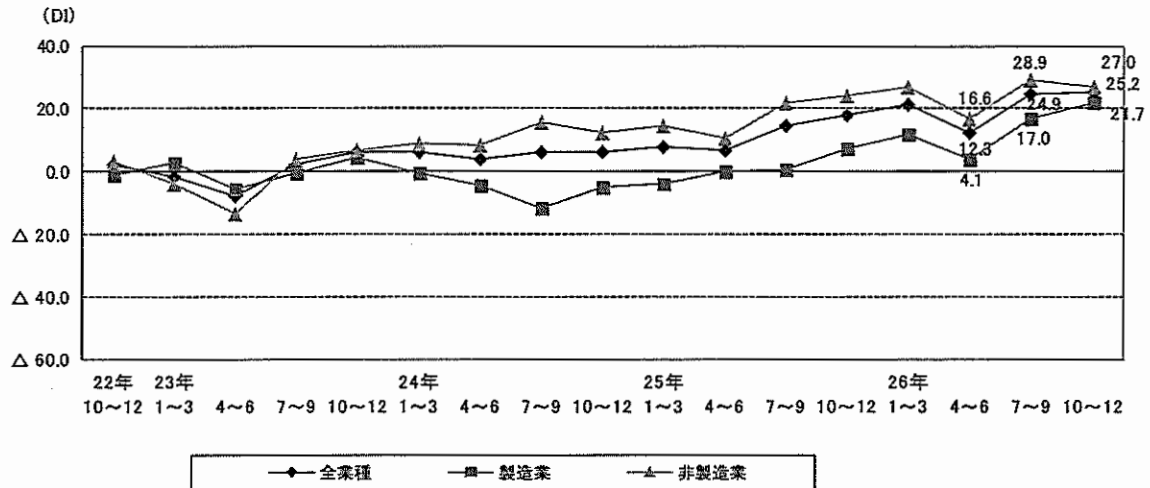
	22年 10~12	23年 1~3	23年 4~6	23年 7~9	24年 10~12	24年 1~3	24年 4~6	24年 7~9	25年 10~12	25年 1~3	25年 4~6	25年 7~9	26年 10~12	26年 1~3	26年 4~6	26年 7~9	27年 10~12	27年 1~3
全業種	8.9	4.9	△ 1.8	△ 10.4	△ 8.1	△ 14.3	△ 6.1	△ 0.8	2.4	1.2	5.0	8.9	16.6	13.6	0.0	6.1	0.6	△ 24.2
製造業	23.0	18.8	10.3	△ 7.2	△ 8.2	△ 10.7	△ 3.8	1.7	1.1	0.0	2.3	4.6	17.1	16.7	2.4	5.5	13.2	△ 11.3
非製造業	3.4	△ 0.4	△ 6.6	△ 11.9	△ 8.1	△ 15.9	△ 7.4	△ 1.9	3.2	1.7	6.6	11.1	16.3	12.0	△ 1.2	6.4	△ 5.7	△ 30.8

※収益 DI=収益が「黒字」とする企業の割合から「赤字」とする企業の割合を引いた値。

#### 4. 雇用(人員過不足感)DI

「雇用(人員過不足感)DI」は、全業種で今期はプラス25.2ポイントと、前期から0.3ポイント上昇し、前期同様の不足感が続きました。製造業はプラス21.7ポイントと不足感が幾分強まり、非製造業はプラス27.0ポイントと前期同様の不足感が続きました。

業種別雇用の動き(実績)と来期の予測



	22年			23年			24年			25年			26年				
	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12
全業種	2.2	△ 1.7	△ 8.0	2.3	6.2	6.2	4.0	6.3	6.1	8.1	6.8	14.7	18.2	21.5	12.3	24.9	25.2
製造業	△ 1.0	3.1	△ 5.8	△ 0.7	4.5	△ 0.7	△ 4.4	△ 11.6	△ 4.9	△ 4.0	0.0	0.7	7.1	11.6	4.1	17.0	21.7
非製造業	3.5	△ 3.6	△ 13.4	3.7	7.0	9.2	8.4	15.5	12.4	14.5	10.7	21.9	24.0	26.7	16.6	28.9	27.0

※雇用(人員過不足感)DI=今期の人員が「不足」とする企業の割合から「過剰」とする企業の割合を引いた値。

#### 5. 要約

前期と比べた県内景況感DIは、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動による個人消費の回復遅れや、円安による中小企業のコスト負担増、人手不足の深刻化などの影響により、大幅に悪化しました。

業況DIについては、今期は悪化幅が拡大し、来期も今期同様の厳しさが続くことが予想されています。業種別にみると、今期は、建設業はやや好調感を強め、運輸業も好転しましたが、製造業は前期同様の悪化幅で推移し、卸・小売業とサービス業は低調感が強まりました。

来期については、卸・小売業はやや改善するものの、製造業、サービス業は今期同様の厳しさが続き、建設業、運輸業は水面下に落ち込むと予想されています。

収益DIについては、今期は下降し、来期は厳しさが強まると予想されています。

雇用DIは、前期同様の不足感が続きました。